

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0291000016		
法人名	社会福祉法人 三笠苑		
事業所名	グループホーム サンライフ碓ヶ関		
所在地	青森県平川市碓ヶ関鯨森90-1		
自己評価作成日	平成27年10月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成27年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>豊かな自然環境の中、広い敷地は、夏は農園や花壇づくり、日課の苑庭散歩やその他の色々な行事等、多目的に使用することができます。 また、併設のデイサービスセンターや児童館との交流も積極的に行っています。 地域に根ざした施設として、地域の諸行事にも参加し、住民との交流に努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームと隣接している児童館やデイサービスセンターと自由に往来することができ、互いに活発な交流が図られている。 近くには道の駅や温泉等があり、地域との交流も行われ、ホームは地域に根差し、豊かな自然に囲まれた、恵まれた環境にある。 職員は、利用者が笑顔が絶えない暮らしができるよう、日々のサービス提供に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が共同で事業所理念を作り、毎朝の申し送り時に唱和して共有し、実践に取り組んでいる。理念の中に地域密着が汲み取れるように文書化し、意識向上に努めている。	ホームでは積極的に地域との交流を図り、利用者が最後まで住み慣れた地域で暮らせるように支援しており、介護予防教室を開催する等、地域貢献も果たし、地域密着型サービスの意義を十分に理解している。また、地域密着型サービスの役割を反映させたホーム独自の理念を掲げ、毎日唱和する等、意識的に職員間で確認・共有をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加し、また、事業所の行事に盛り込んで、地域の方々との交流をしている。	外出時の挨拶や声かけをはじめ、関所祭りや小・中学校合同の地域総合運動会等、地域の行事に参加し、交流を図っている。また、クリスマス会や敬老会等のホーム行事に、地域の婦人会や赤十字ボランティア等の参加を得ている他、介護予防教室を開催する等、地域貢献を果たしながら、活発な交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防教室を開催し、介護や認知症を理解していただくように努めている。また、介護についての悩みや相談を受け付け、福祉について地域に情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、出席者の意見や要望、アドバイスを活かし、改善や実践に努めている。	民生委員や家族代表、行政担当者、地域包括支援センター職員、ホーム代表等がメンバーとなり、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、サービスの現況や各種の報告を行いながら、意見交換を行っている他、一緒におやつづくり等にも取り組み、利用者とのふれあいを図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない事や困り事は必ず担当者に相談し、確認する等、協力をいただいている。また、パンフレットや広報誌を配布し、外部評価報告書等も提出している。	運営推進会議時等にホームの広報誌やパンフレット、自己評価及び外部評価結果等の配布や提出をしており、アドバイスを得ている。また、必要に応じて、その都度相談等を行い、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や学習会を通じて理解し、身体拘束をしないケアを実践している。玄関、居室の施錠は行わず、自由に行き来できるようにしている。	マニュアルを作成し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。法人の各事業所で構成している学習委員会で研修を行い、それを伝達研修する等、職員は身体拘束について十分に理解している。また、利用者の言動には十分に注意して、気づきを職員間で共有し、見守りや必要に応じて付き添う等の支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や学習会を通じて理解し、入居者様の様子や変化には常に注意を払い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会を通じて理解し、必要な時には関係者と相談しながら、いつでも制度を活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書と運営規程を説明し、理解・納得していただいた上で署名・捺印をしていただき、一部ずつ保管している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している他、面会時や電話、家族アンケートを実施して要望や意見を伺い、職員間で話し合い、改善や実践に努めている。	利用者とは日頃から何でも話せる関係づくりに努めており、1対1でゆっくり話ができる機会をつくっている他、意思表示ができない利用者については、日々の言動から察するように努めている。また、家族アンケートを実施する等して意見を求め、ホームの運営やサービス提供に反映させるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回、法人から職員へ個人調書が配布され、法人や事業所への要望や意見を記入し、職員の意見を聞く機会を設けている。	月1回の法人の管理職会議後、内容の報告会を行っている他、月1回の職員会議、必要に応じてユニット会議、計画作成時のカンファレンス等、その都度、職員間で意見を出し合い、共有を図っている。また、職員から出された意見は運営に反映できるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤簿で勤務状況や職員の努力、実績を把握し、就業規則や給与規程に基づいて整備され、職員がやりがいや向上心を持てる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自の年間研修計画を作成しており、全職員が受講できるように配慮し、職員の資質向上に努めている。また、資格取得に向けての助成金制度を設け、支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他グループホームとの交流の機会を設け、施設見学や入居者様同士のふれあいを通じて、お互いの連携や情報交換により、日々のサービス向上につなげている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談の段階から施設見学や本人へ面会する機会を設け、不安や要望を把握し、コミュニケーションを図りながら、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階から家族の意見や要望、不安に思っている事を受け止めており、連絡や報告を密にして、家族が安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と十分に話し合い、必要としているサービスを検討し、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される側の立場になり、できる事を見つけて、自立支援を実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加や面会を呼びかけ、家族との交流の場を設け、家族の意見を反映させながら、理解と協力をいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用していた馴染みの商店や理・美容室等を入居後も利用したり、面会や外出も気軽にできるように支援している。	入居時の情報や日々の利用者の言動、利用者同士の会話等から馴染みの人や場所等を把握し、職員間で共有している。また、理・美容室の利用をはじめ、商店への買い物、デイサービスの知人との面会等、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が関わりを持てるように、職員が間に入り、コミュニケーションが円滑に図れるように支援している。また、できる人ができない人を支えることが自然に行われており、職員はさりげなく支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、本人や家族の状況を把握し、いつでも相談に応じられるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の話を傾聴し、日常的な会話から本人の思いや意向の把握に努め、また、生活歴や家族、関係者からの情報を基に、本人の希望に沿えるように努めている。	水分補給時に同席して話を聞く時間を作る等、日々のコミュニケーションから利用者の思いや意向を把握するよう、職員は傾聴に努めている。また、晩酌を楽しんでいる利用者もいる等、職員は利用者が納得するまで支援する姿勢で対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様や家族とコミュニケーションを図り、生活歴や生活環境の把握に努め、また、関係者との連絡を密に取り、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活に気配りをし、一人ひとりのできる事や一日の過ごし方、生活のリズム、現状を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画作成時には、本人の意向を聞いたり、家族や関係者の意見を反映させながら、現状に即した介護計画を作成している。	利用者や家族の意向、希望等を可能な限り聞き、気づきノート等を参考にして、1か月毎に実施しているモニタリングと照らし合わせ、全職員でカンファレンスを行って検討の上、介護計画を作成している。また、利用者本位の現状に即したサービスができるよう、個別具体的な介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や身体状態等を個別に記録し、いつでも読めるようにしている。月1回のカンファレンスで全職員が共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や家族の状況を把握し、その時々に必要なサービスの提供や支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化祭等の地域行事への参加・見学を行っている他、地域住民のボランティアも受け入れている。地域の消防署とも連携を取り、安全な暮らしに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿って受診している。受診時には、症状改善につながるように詳細な報告を行い、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時のアセスメントから受療状況を把握している。基本的に定期受診は家族対応としているが、状況に応じて、家族の意向にも沿いながら、ホームでも対応している。また、緊急時や検査等は家族が対応しており、連絡を密にして情報の共有を図りながら、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を利用し、体調の報告や相談を行っている。体調に変化がある時には、24時間体制で連絡・相談し、指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院機関に情報提供を行い、入・退院について病院関係者や家族と相談・協力し、支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、入居時に重要事項説明書や終末期の看取り事前確認書を通じて説明し、共有しながら取り組んでいる。	重度化や終末期のあり方について、入居時に重要事項説明書や看取り介護に関する指針を提示して説明し、事前確認書を得ている。同法人の他事業所での研修に参加する等して、困難な事や不安な事等を職員間で話し合い、主治医や関係医療機関、訪問看護ステーションとの連携を密にしながら、再度、家族の意向を踏まえ、チームで支援する体制が整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が定期的に普通救命講習の受講やマニュアルを作成・掲示し、すぐに対応できるように実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜想定での避難訓練、消火訓練、通報訓練を行っている。災害時には近隣の協力委員や消防・警察からも協力が得られるよう働きかけ、同意を得ている。	地震や土砂災害等も想定した具体的な避難誘導策、マニュアルを作成しており、年2回、昼夜を想定し、消防署等の協力を得て、職員と利用者が一緒に訓練に取り組んでいる。また、時間を計測しつつ、シーツや布団を利用して、2階の非常用螺旋階段からの避難訓練等を行っており、町内の協力員が避難した利用者の見守り等を行う体制も整備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助やおむつ交換、着替えには十分に配慮し、自尊心やプライバシーを損ねないように、適切な言葉かけや対応を心がけている。	職員は利用者に寄り添いながら、訴えをまずは聞くことから始め、否定や拒否をせず、笑顔で傾聴する姿勢で支援に努めている。また、介助時や声がけ時は利用者の羞恥心に配慮し、言葉遣いに注意して、目線を同じにする等の対応に努めており、気になる対応はホーム全体で注意し合い、日々の確認や改善に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、話しやすい雰囲気づくりを心がけ、思いや希望を優先し、意思を確認して自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課はあるが、無理強いはしていない。一人ひとりのペースで、自由に、希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する美容院の予約や化粧品を注文したり、着替えも好きな物を選んでいただく等の支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下拵えや食器拭き、テーブル・お盆拭き、おしぼりたたみ等、一人ひとりが役割を持ち、毎日、お手伝いをしていただいている。献立の苦手な物には代替品を提供している。	献立は法人の管理栄養士が作成し、利用者の飲み込みや心身の状態、好み、禁忌等に考慮して、職員が調理しており、代替え食や調理形態等を工夫している。また、利用者一人ひとりが役割を持ち、力を活かしながら、食事の下拵えや食器拭き等に取り組んでおり、食前には嚥下運動や献立の説明をして、食事を楽しめるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が献立を作成している。水分が摂りづらい方にはトロミを付けて提供している。チェック表により食事摂取量・水分量を記録し、把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔洗浄を個々の状態や自立度に応じて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンの把握に努めている。個人の排泄能力に応じて声がけし、トイレでの排泄を支援している。	個々の排泄パターンを記録し、事前誘導のタイミング等に活用しており、尿・便意の確認や失禁時の声がけは特に羞恥心に配慮している。また、利用者の心身の状況に応じて、随時、支援方法を見直ししながら、リハビリパンツの使用やトイレでの自排泄等、自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝・毎昼の乳製品提供や、軽体操、歩行運動を行っている他、下剤の調整により、定期的に排泄ができるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	一人ひとりの入浴習慣や好みを把握し、入浴剤等で工夫している。入浴を拒否した時には、日を改めて入浴していただいている。	基本的に週2回の入浴日を設定している他、土曜日を希望入浴日とし、利用者の意向を取り入れて支援している。利用者の心身の負担感や羞恥心に十分に配慮できるよう、職員2人体制で支援している他、好みのシャンプーやタオルの硬さ等、些細なことでも利用者の希望に即して入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況や希望に応じて、ベッドの位置や高さを変えたり、照明を調整する等、工夫しながら安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人ファイルに綴って確認し、変更については連絡ノートで全職員に確実に伝達している。また、服薬服用を確認し、服薬後の経過と変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や要望により、役割を決めている。季節の行事を取り入れながら、好みのドラマ視聴やDVD鑑賞等、楽しみながら生活を送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を伺い、ドライブや買い物に出かけ、気分転換を図っている。また、家族との外出や外泊の機会を持てるように働きかけている。	利用者が出かけた場所や欲しい物、食べたい物等、直接利用者に聞いている他、日々の言動から把握に努め、利用者の希望に応じた外出支援に努めている。道の駅や足湯、美容院、買い物等に積極的に出かけ、家族にも働きかけながら外出等の機会を作るように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に説明し、預かり証、承諾証等を取り交わし、自身で管理できる方は所持したり、困難な方には職員が対応し、お金を使えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時や家族から電話がきた時には対応している。また、携帯電話を所持し、自由に使用している。家族が遠方にいる入居者様には手紙のやり取りでの交流を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール中央にソファやテーブルを設置し、ゆっくりと思いいいに過ごせるようにしている。室内の温度・湿度にも気を配り、季節感のある花や飾り付けを工夫している。	大きな窓からは近隣の畑や山々の紅葉がよく見え、共用スペースにはソファやテーブルが置かれ、職員から全ての利用者が見えるよう、テーブルの配置が工夫されている。ホームは床暖で空調設備が整い、加湿器を配置して乾燥対策がなされている他、ゆっくり新聞を読んで聞かせている職員の声も適切で、家庭的な雰囲気の中、利用者が落ち着いて過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	苑庭、ホール、廊下には座る場所があり、自由に寛げるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や小物等、馴染みのある物を持ってきていただくように働きかけ、安心して居心地よく過ごせるように支援している。	居室には洗面台やトイレが設置され、大きな窓は防火用障子で、明るさと和風の落ち着きがある。自宅で使用していた馴染みのある物を持って来ていただくように働きかけており、位牌や化粧品等が持ち込まれている。また、保育園児が訪問時に作成した作品を飾る等、利用者一人ひとりに合った居心地の良い居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで対応し、廊下・居室には手摺りを設置して、安全に努めている。各居室にはトイレ・洗面所が設置され、自立した生活を送れるように配慮している。		